

金曜日 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

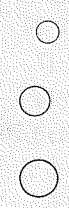
わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



見せ、国民の祝日にまでなったそうです。なんとその時の対象者は、55歳以上の人だったんですね。



「ばあさん、ばあさん」「何ですか、おじいさん」「今、表を通ったのは留さんじゃないかい?」「何言ってるんですか、おじいさん。ちがいますよ、今通ったのは留さんですよ」「ああ、そうかい。わしはまた留さんかと思ったよ」

仲の良い老夫婦が話しています。これは落語の枕によくある話ですが、すべてはにもありそうな会話ですね。

これと似た話を、このコラムがきっかけで出会った外資系銀行の元銀行マン「Mr. GN」(ミスター・グッドニユース)に教わりました。米国のご婦人3人の会話です。

「Isn't it windy?」(今日は風が強くないか)

「It isn't Wednesday. Thursday today.」(今日は水曜日じゃない、木曜日だよ)

「I'm thirsty too. Let's have tea.」(私も喉が渇いたから、お茶を飲みましょう)



年を取る(とめが)ちがカタが出てきます。目も辛いです。耳が遠くなったのも往生します。この間にかテレビの音量が大きくなっていて家族に眉をひそめられ、何

を言われたかわからず何度も聞き直すのも嫌がられません。

先日は「敬老の日」でした。様々な催しがあったと思いますが、参加されませんでしたか。それとも、お孫さんから何かプレゼントをもらいましたか。お子さんからもらうよりうれしいですね。

この「敬老の日」の始まりは1947年のことだそうです。兵庫県のある村の村長が、「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」との趣旨で、農閑期にあたり気候も良いことから9月15日に「敬老会」を催しました。これが全国に広がりを

現在は何歳から祝うのでしょうか。実は基本的には決まりはなく、満60歳になる還暦に合わせてという人もいますし、老人福祉法で高齢者と定められている65歳にお祝いしてもらったこともあります。あるいは後期高齢者の75歳でしょうか。一般的には孫が生まれてから、という場合が多いようです。それにしても、55歳から始まった会も長寿になったものです。

現在69歳の私は、「敬老の日を祝うよ」と言われたら、「まだいいよ」というのが本音です。贈りものをくれる孫もいませんし。

皆さんは何歳になったら祝ってもらいたいですか。